

DNA **HACKER**

山牧田 湧進



【まえがき】

※【ご注意ください】

- ・この作品はフィクションです。実在の人物・地名・団体等とは一切関係ありません。
- ・この作品は成人ゲイ向け官能小説であり、男性同性愛を語っています。同性愛に嫌悪感を抱く方はご覧にならないよう、お願い申し上げます。
- ・この作品は表現の誇張、強調や省略のある、必ずしも現実には即していないファンタジーであることをご了承ください。
- ・特に作品中の性的描写は、現実の性交渉における性病等のリスクを意図的に排除しています。現実と混同しないよう、ご注意願います。
- ・この作品は想像して楽しんでいただくものです。現実との区別を付けられず、犯罪や迷惑行為に及ぶ危険のある方はご覧にならないでください。

【あらすじ】

国をも陥れようと暗躍するDNAクラッカー。

それに対抗し、阻止しようとするDNAハッカー（ホワイトハッカー）集団は二人の男ヒロイに奇跡と希望を見た。

一人は超人的な記録が元で全世界から生命を狙われ、幽閉されるまでに至った先天性リアルスーパーマン、群星光矢。

そしてもう一人が、DNAハックを受けて強力かつ俊敏な肉体を構築することに成功した後天性リアルスーパーマン、蔵木宏彰である。

超人幽閉で出会い、精巣ドーピングで絆を深めた二人が偶然にも、受精を利用したDNAハッキングによる後天的進化の可能性を大きく開かせた初めての人類となった。

『テレゴニー』、『遺伝子の水平伝播』、『腸からの精液吸収』。

これらの説や現象の組み合わせを具現化する蔵木は、変化してゆく己の身体に様々な不安と葛藤、そしてエロスも感じながら、男性が受精をする意味を大きく変化させ進化させた。

そして、その具現化を群星と彼の精液が大きく後押しする。

ある意味で、妊娠を超えることにもなる『男の受精』。

人類はこれから、世代交代を待たずに進化できる可能性を広げていくのかもしれない。

【主な登場人物】

・蔵木 宏彰（くらき ひろあき）

物語上の一人称「私」。保護兼世話役として群星に付いて以降、個人的好意もあって献身的な日々を重ねるうちに二人三脚的な息の合うコンビへと変化してきている。元より群星に勝るとも劣らない筋力と体力を持つ巨漢であったが、いつの間にか俊敏性も大幅向上して群星との差を詰めていたことが判明。しかし、それには納得できるような理由が存在せず、群星のDNAを取り込んで進化した説をG博士が唱えたことで事態が急展開する。後に、世界一の実績も持つ力自慢のDNAをも取り込んで、世界でも類を見ない程の身体能力を持つDNA強化改変型後天性リアルスーパーマンの第一号となる。大人のゆとりと色気と良い意味での隙きも持ち合わせていて、G博士の最もお気に入りのお一人。

・群星 光矢（むるぶし こうし）

物語上の一人称「僕」。人類に理解のできない記録の出し方をして生命を狙われる嵌めになった元超トップアスリート。蔵木に対比して先天性リアルスーパーマンの第一号とも言われる。高バランスの身体能力を持ち、特に強靱な筋力を持ち合わせつつの俊敏性の絶対的高さが蔵木に対するアドバンテージになる。精巣ドーピングの後遺症でまだ肥大化したままの睾丸が方で衝撃を生み、それが事態好転のきっかけにもなったりするラッキーボーイ。本来はゲイではなかったが、今では蔵木にべったり。馴れるに連れて末っ子的なキャラが目立つように。

・G博士（Dr・G）

男性、および、男性の性機能に強い関心を持ち、極秘の研究を続ける科学技術者。その分野では先端のさらに先を行っており、しかし、その研究成果はそのままでは公開されず、時間を置いてから公開できる部分だけを厳選して

抜粋もしくは未公開のまま製品開発に移行されるため、G博士本人が発表のための論文を書くことは無い。学界でも名を知らない人物だが、蔵木とは以前から縁があった。G博士本人はそれに全く気付いていない素振りを長年してきたが、本心か演技かは不明。

これまでのG博士の研究結果は『合法的に人格を破壊する方法』『精液分泌過剰促進剤』『超人幽閉！』『精巣ドーピング』に記載されている。

【目次】

表紙	1
まえがき	2
あらすじ	3
主な登場人物	5
第1章 悪意のウイルス、あるいはそれ未満の微粒子	10
第2章 G博士の心配事	16
第3章 蔵木の苦悩	18
第4章 テレゴニー	20
第5章 DNAハッカー	22
第6章 蔵木の戸惑い	24

第7章	男性が受精をする意味	26
第8章	ハックする精子、ブリストする精液	28
第9章	強化DNAの主	30
第10章	ミルフィューブリーディング	32
第11章	受精痛、成長痛	34
第12章	クラッキング物質を盗み出せ	36
第13章	血眼の脱出劇	38
第14章	誓い成遂の後	40
奥付		42

第1章

粒子 悪意のウイルス、 あるいはそれ未満の微

倫理を悪く言うつもりは無い。

しかし、富なるものはより莫大な富を得、貧するものはより困窮するだけの理不尽な世の中で、富裕層が作り、絶えず富裕層にとって有利なように改変され牛耳られ続けるルールに縛られているだけでは一向に、絶対に逆転は不可能だ。

だから、少しでも可能性あるものはそのルールの転覆を常に企てるし、既定のルールを逸脱し無効化しようとする。

その最も単純、かつ、短絡的な行動が暴力行為である。

そこに規模と悪知恵が絡むと軍事力を利用した駆け引きになり、そこに盲信的な信仰が絡むとテロリズムになったりもする。

それらは、肉体的、物理的な破壊を試みるが、知識を持つと頭腦的な破壊も試みたりする。

例えば、情報、通信システムに対する単純短絡暴力行為であるDOS攻撃。

そこに規模が絡むとD D O S攻撃になり、
更なる知識が絡むとハッキングになったりもする。

元来、悪意を持ってシステムへの侵入を試みる行為については「クラッキング」、「悪意を持ってシステムへの侵入を試みる者については「クラッカー」という言葉が存在していて、「ハッキング」「ハッカー」という言葉には本来、善意悪意の区別は無かったはずなのだが、大衆にその語句が広く浸透する際に「ハッキング」「ハッカー」という言葉そのものに悪い印象を持たれてしまうことが多くあり、逆に悪意ではないことを強調するかのように善意のハッキングを行う者を指して「ホワイトハッカー」なる言葉が誕生するようになってしまっている。

ところで、この「ハッキング」という行為は何もITシステムに対して行われるものばかりとは限らない。

カジュアルなところでは、習慣により硬直したシステムと化してしまった生活

に対して何らかの（良い）変化をもたらそうとする行為のことを「ライフハック」なんて呼んだりもするのだ。

逆に重々しいところでは、人体の生体システムに対する「ハッキング」も存在する。

重々しいなんて言ってしまったが、比較的軽い、対生体システムハッキングもあるわけで、例えば「薬を飲む」なんて行為も、一種の人体に対するハッキングと捉えられなくもない。

低GIダイエットだとか、納豆が身体に良いだとか、我々は情報によって頭脳にハッキングを受け、その影響を受けた脳の命令により意図的に摂取する食物をコントロールして肉体に対してもハッキングを試みているのだ。

そして、現時点では特に重い方に整理されるであろう対生体システムハック行為が「遺伝子操作」と言えるだろう。

それでも、主に植物や食物などでは直接的な操作も増えつつあるし、元より「品種改良」という名の元に意図的な交配を繰り返すことで遺伝子を操作してきたという歴史は既にたくさんある。

ただし、特に人体のDNAを改変しようとする試みには未だ倫理の問題が大きく立ちはだかるのが現状だ。

それでも、出来ることがあるとすれば、それは、難病の克服など、医療に関わる研究であろう。

本来ならば、人体の弱点を解消させるための研究。

しかしそれは同時に、弱点を暴き出す、あるいは作り出せる研究にもなってしまいうことが出来得るのだ。

そして仮に、そんな研究が悪意に利用されてしまったら？

例えば、武力行使のように派手に目立つことをすれば即効性はあるが、すぐに犯行元を特定され、対抗あるいは反撃されることであろう。

しかしそれが、ウイルスなどのように、意識的な検知を行わない限り顕著な発症を起こすまでその存在を知ることすらできないようなものであったとしたら？

(こちらは体験版です)

第2章

G博士の心配事



(こちらは体験版です)



蔵木の苦悩

第3章



(こちらは体験版です)



第4章 テレゴニー



(こちらは体験版です)



第5章

DNAハッカー



(こちらは体験版です)



第6章

蔵木の戸惑い



(こちらは体験版です)



第7章

男性が受精をする意味



(こちらは体験版です)



第8章

ハックする精子、ブーストする精液



(こちらは体験版です)



第9章

強化DNAの主



(こちらは体験版です)



第10章

ミルファイヤーユブリーディング



(こちらは体験版です)



第11章

受精痛、 成長痛



(こちらは体験版です)



第12章

クラッキングで物質を盗み出せ



(こちらは体験版です)



第13章

血眼の脱出劇



(こちらは体験版です)



第14章

誓い成遂の後

(こちらは体験版です)



DNA Hacker

OpusNo. Novel-049
ReleaseDate 2018-04-18
CopyRight © 山牧田 湧進
& Author (Yamakida Yuushin)
Circle Gradual Improvement
URL gi.dodoit.info

個人で楽しんでいただく作品です。
個人の使用範疇を超える無断転載やコピー、
共有、アップロード等はしないでください。
(こちらは体験版です)